

立教186年
活動方針

「教祖のひながたを目標に
全教会、心定めの達成」
めどら

◇本部春季大祭◇
1月26日、中山大亮様祭主のもと、厳かに春季大祭が執行された。

◇教祖140年祭へ向けて◇
三年千日の年祭活動がスタート！

◇全教会一斉巡教始まる◇
2月から4月にかけて一斉巡教が行われます。
詳細は3ページ目をご覧ください。



発行所
天理教網走大教会
布教部出版広報掛
〒093-0073
網走市北3条西6丁目
TEL 0152-43-2227
FAX 0152-44-2227



大教会のHPがご覧になれます！
月報には掲載されない写真もいっぱいです！
ぜひ一度ご覧下さい♪

大教会 春季大祭

大教会1月の春季大祭は、12日午前9時30分から大教会長祭主のもと、執行された。

大教会長は祭文で、親神様の御守護に御礼申し上げた後、「教祖百四十年祭三年千日一年目にあたる本年は、教祖のひながたを目標に、全教会心定めの達成という活動方針を掲げ、具体的に初席者六十九名、ようぼく四十四名、修養

科修了者三十四名、教人二十一名の心定めを、網走大教会全部内ねりあいのもと、定めさせて頂きました。今年一年この心定めに真剣に向かい合い、教祖のひながたを実行にうつし、勇んで通らせて頂く決心でございます。」と奏上した。

その後座りづとめ・十二下りのてをどりが勤められ、参拝者は共に勇んでみかぐらうたを唱和した。

神殿講話

大教会長



神殿講話要旨

◆教祖年祭の歴史◆

教祖の年祭は、今から137年前、明治20年陰暦正月26日教祖がお姿をお隠しになられて後、本席飯降伊蔵先生を通して「子供可愛い故、をやの命を二十五年先の命を縮めて、今からたすけするのやで」と

のお言葉から、世界中の人間をたすけたいという、たすけ一条の親心をご本部の先生方が聞かせて頂き、その後我々の初代や二代、又諸先輩先生方へと伝わり、教祖の年祭を命懸けで歩まれてきたわけがあります。

教祖1年祭は、明治21年陰暦正月26日に執行され、教祖を慕って集まる人は、約3万人もいたそうです。しかし当日は齋主を巡る問題から樺本警察署長以下、配下の巡查8名が祭場に現れ、年祭中に祭

員の取調べを始め、1年祭は中止になりました。

教祖5年祭は、明治24年3月6日(陰暦正月26日)から8日までの3日間執行されました。この年祭では10数万人の人が帰られたという記録が残っております。先の1年祭では、警察が途中で割って入り中止になりましたが、5年祭までに神道本局直轄天理教会として地方庁の認可も得て、1年祭とは打って変わり警察の巡查2名が徹夜で警備に就くという有様でした。この年祭の2年後、明治26年に目の患いから、網走大教会初代脇本熊吉先生が入信されました。教祖10年祭は、明治29年3月9日(陰暦正月25日)に執行され、参拝者数は20万余人にもなったと記録されています。そして北は北海道、南は沖縄又海外までと教勢が広まりました。教祖がお姿をお隠しになられた頃の信者数から比べると、信者は30万人以上になり、1年祭の時に約4万から5万人だった信者が、たった10年で60倍以上になったのであります。当時の日本の人口が4千万人位でしたので、人

ある小山福太郎先生と抱き合
いながら暖を取り、毎朝生き
死にを確認しておたすけに出
ておられました。初代の伏せ
込みがあるから今の大教会が
あるのです。そして理の立
方において、二代三幣勝五郎
先生は、本部や上級から巡教
の先生をお迎えする時、巡教
を頂く体制に入り、無事到着
するよう、お願いづとめをす
るのが常であったそうです。
又、三代三幣かく先生は、
朝夕のおつとめに関して、「時
間ぎりぎりになって、付き合
い程度のおつとめは、おつと
めとは言えません。少なくとも
10分前には来て心を鎮め、お
つとめの時間まで待たせて頂
きなさい。」と住み込みの方
へ仕込んでいたそうです。ま
た、信者さんに対する接し方
に関して、二代三幣勝五郎先
生は「お供えを出す身になっ
たら大変なんですよ、容易で
はないんですよ。」と神様の
お供えは置き場所にも注意し
非常に丁寧に取扱い、5銭
10銭という小さな金額でも頭
を垂れ、お包みを丁寧に押し
頂き、数分間も相手のご苦勞
と真心に感謝して、「ご苦勞
頂きましたようね。」というの

常で、この態度を見た信者さ
んは、今度はもつとつとめさ
せて頂くこうと思つたそうす
です。今はご守護が少なくとよく
口にしますが、私は親神様・
教祖に対して、又、信者さん
に対してここまで心を遣つて
いるのかと考へた時、非常に
反省の気持ちでいっぱいにな
ります。我々の信仰には教祖
のひながたがあり、そのひな
がたを命懸けで辿つた先人先
生方がいて、その伏せ込みの
お陰で今の網走大教会が成り
立っています。そしてその先
人先生達は教祖の年祭毎に、
まさに命懸けで教祖へのご恩
を返す精神をもって通つて来
られました。
いよいよ今月のご本部の春
季大祭より三年千日の年祭活
動が始まります。まずは1月
26日におぢばへ帰り、教祖よ
りお許し頂いた、網走大教会
に繋がる我々教会長がご本部
の教祖殿へ足を運び、それぞ
れの教会で定めた心定めを教
祖の御前で「本日よりまずは
一年目の心定めを勇んでつと
めさせて頂きます」とお誓い
申し上げ、年祭活動のスター
トを切らせて頂きましょう。



立教186年人のご守護心定め			
初席者	ようぼく	修養科修了者	教人
69名	44名	34名	21名
成 果 (1月末現在)			
1名	1名	0名	0名

真柱様64歳の誕生日
1月16日真柱様は満64歳の
お誕生日を迎えられた。
大教会では、朝づとめ、て
をどりまなび終了後、皆で三
階客間に上がり、細木善信役
員が真柱様にお祝いの言葉を
申し上げた。
また夕づとめ終了後、参拝
場にて少年会を代表して網走
隊長瀬川つぐみさんが真柱
様にお祝いの言葉を申し上げ
た。

全教会一斉巡教始まる
昨年10月26日、「諭達第四
号」が發布され、この「諭達」
に込められた精神と年祭活動
の意義を、全ようぼくに徹底
するため、「全教会一斉巡教」
が2月から4月にかけて実施
される。
各教会の世話人が巡教に回
り、「諭達」の内容を掘り下
げて説明した後、三年千日の
心の持ち方、通り方などを講
話し、最後に当該教会長が決
意を述べて終了になります。
一人でも多くの方をお誘い
し、巡教を受けさせて頂きま
しょう。

～修養科志願者事前研修会～

【開催日】2泊3日 (1日目13時開講
3日目10時30分閉講)
毎月11日・12日、23日～28日を除く日
※年末年始(12月28日～1月12日)は休講
※原則受講日の1ヶ月以上前に、希望の
日にちを添えて、所属の教会を通して
お申込み下さい

【会場】網走大教会 【受講御供】3000円

口の7%位がお道の信者で
あったということが分かりま
す。この頃の明治31年に網走
二代三幣勝五郎先生が14歳で
入信されました。又、明治34
年に脇本熊吉先生は、網走に
て布教を開始されています。
教祖20年祭は、明治39年2
月18日(陰暦正月25日)に執
行され15万人の参拝者と記録
があります。この時の年祭は、
10年祭直後の内務省秘密訓令
によって政府から弾圧され、
又、世上からは新聞等で悪口
を書き立てられる時代であり
ました。この年祭で、当時22
歳であった網走二代三幣勝五
郎先生は、徒歩でおぢばがえ
りされ初席を運ばれました。
又、明治44年には、脇本熊
吉先生を初代とし、網走宣教
所が開設されました。
教祖30年祭は、大正5年1
月25日に執行され、参拝者数
は20年祭と同じ約15万人でし
た。網走では年祭の翌年大正
6年、宣教所にお目標様がお
鎮まり下さり、名実共に「ぢ
ばの出張り場所」となりました。
翌年には、二代真柱御一行
様が初めて網走へお入り込み
下さっております。

教祖40年祭は、大正15年1
月15日、20日、25日の3回に
わけて執行されました。この
年祭より5年前から1つの目
標を立て、全教が一丸となつ
て年祭に取り組むという体制
になり、40年祭当時は活動目
標の大きなものとして、「教
勢倍加運動」と「海外布教」
の提唱でありました。年祭の
参拝者数は延べで65万人を突
破し教勢倍加の実績を残す結
果となりました。20年祭・30
年祭と停滞していた教勢も、
この頃から再び息を吹き返し
てきたようです。40年祭では、
二代三幣勝五郎先生を筆頭に
網走として初めて100人を超え
る団体でおぢばがえりをさせ
て頂きました。
教祖50年祭は、昭和11年1
月26日から2月18日(陰暦正
月26日)までを祭典期間とし
て執行され、今までお教え通
りにつとめられなかったおつ
とめが、かんなろだいを芯につ
とめられ、ほぼ復元されまし
た。この50年祭では、網走か
ら三幣勝五郎先生を始め部内
会長15人が昇殿参拝をさせて
頂きました。
教祖60年祭は、昭和21年1

月26日から2月18日まで執行
され、この年祭は、日中戦争や
太平洋戦争の影響により、50
年祭の勢いとは異なり非常に
寂しい年祭であったそうです。
年祭の前年には戦争が終わり、
教会本部は直ちに教義の復元
に力を注ぎ、婦人会や青年会
も復元し、いわば復元の年祭
だったのであります。
教祖70年祭は、昭和31年1
月26日から2月18日まで執行
され、参拝者数は60年祭と比
べると、100万人以上の帰参者
であふれかえりました。「屋
敷の中は、八町四方と成るの
やで」という教祖のお言葉の
実現を志し、おやさとかかた
の建設に着手することが決め
られ、約15万人のひのきしん
のもと、1年半弱でおやさと
やかたの第一期工事、真東棟
をはじめ、東左第1棟から第
5棟までが普請されました。
これは今の別席場付近のやか
たになります。また、稿本天
理教教祖伝の刊行や、2時の
サイレンもこの年祭の年から
鳴らすようになりました。
網走大教会は教会として初
の大規模団参となり、関東の
帰参者も一旦網走に集まり、

全員揃って出発し、心定めを
上回る70名というご守護を頂
きました。
教祖80年祭は、昭和41年1
月26日から2月18日まで執行
され、復元の徹底による心の
成人をさらに掘り下げて、信
仰の充実が図られ、海外布教
も一段と活発になり、海外伝
道部にアジア、アメリカ、ヨー
ロッパ、アフリカ、オセアニア
の5課が設置され、又メキシコ
パラグアイ、アフリカ、ペルーな
どへ教線を伸ばしていきまし
た。当時網走からは、1月20
日に3代三幣かく先生を筆頭
に第一陣866人、第二陣は、2
月12日に83人がおぢばへ帰ら
せて頂くという、前人未到の
数の方が帰参され、現在とは
比較すら出来ない程の大きな
団体になりました。又この年
祭の年に、進め網走の歌や網
走月報が刊行されました。
教祖90年祭は、昭和51年1
月26日から2月18日まで執行
され、三年千日と仕切つた年
祭活動のスタイルに変わりが
ました。稿本天理教教祖伝逸話
篇が刊行されたのもこの年祭
の時であります。帰参者の数
は、200万人を超える参拝者で

おぢばがあふれかえつたそう
であります。別席者の数は、
海外も合わせなんと17万人以
上という記録があります。
これから更に教祖100年祭・
110・120・130年祭を経て、現在
140年祭三年千日の活動が始ま
ろうとしておりますが、年祭
のたび、さまざまな節があり
大きく飛躍してきたお道も、
現在では教勢に勢いがいない状
態になっております。親神様か
らのご守護は、昔も今も変わ
らないはずなのに、なぜ今は
ご守護を頂けないのかと考え
れば考えるほど、なぜだろう
と難しく思っていました。が、
教祖はこの道を、ごく簡単な
ことから身をもってお教え下
さりました。簡単にわかりや
すく考えた時、教祖のひな
がたもそうですが、身近な話
を振り返るのもよいのではと
思い、網走大教会の初代会長
をはじめ二代・三代会長の通
られた道のりを少し振り返ろ
うと思ひます。
まずは初代会長の苦勞です。
初代脇本熊吉先生はひたすら
教祖のひながたのみを心に置
き、おたすけに命懸けであり
ました。扉もない小屋で寝食
をし、冬はマイナス20度、30
度の中、もう一人の布教師で

動 静

◎出 直

▼直轄教人・大箭一男様は1月12日出直された。享年97歳。葬儀は1月13日みたまうつしが、翌14日告別式が札幌市のハート倶楽部白石記念斎場にて瀨川定自・直轄世話人齋主のもと執行された。

▼東藻琴分教会長夫人・小針すみ子様は1月22日出直された。享年72歳。葬儀は1月23日みたまうつしが、翌24日告別式が東藻琴分教会にて瀨川定自・役員齋主のもと執行された。

▼誠央分教会所属・加賀谷忠様は12月28日出直された。享年91歳。葬儀は1月1日みたまうつしが、翌2日告別式が札幌市やわらぎ斎場厚別にて、永井康幸誠央分教会長齋主のもと執行された。

◎年 祭

▼誠央分教会所属・志賀美保子様の一年祭が12月7日誠央分教会にて、永井康幸誠央分教会長祭主のもと執行された。

1月人の守護

○初席者

誠 網 河 合 かおり

○中席者 (1名)

誠 陽 伊 藤 正 将

○おさづけの理拝戴者(1名)

常 呂 野 村 晃 巧

○別席傍聴願 (1名)

育英会寄付者

加賀谷家様 (葬儀)
大箭家様 (葬儀)
小針敏文様 (妻出直)

大教会1月の動き

- 1日 元旦祭。細木善信役員、本部神殿奉仕つとめる
- 2日 直轄世話人会
- 3日 会長、おぢばがえり。役員会会議
- 4日 会長、年頭あいさつ出席
- 5日 会長、お節会ひのきしん(7日まで)
- 8日 縦の伝道日
- 9日 網走支部例会会場
- 10日 役員会会議
- 11日 全教会一斉巡教、巡教員研修会
- 12日 春季大祭。役員会会議。連絡会
- 13日 修養科事前研修会模擬演習
- 15日 縦の伝道日
- 16日 真柱様お誕生日お祝い。会長、関東方面直轄信者まわり(19日まで)
- 17日 会長、館山分教会大祭参拝
- 18日 会長、嶽東大教会参拝
- 19日 会長、札幌方面直轄信者まわり(21日まで)
- 22日 縦の伝道日
- 23日 会長、おぢばがえり。詰所23会
- 24日 会長、本部神殿奉仕つとめる
- 25日 五季御礼。会長、本部災救隊会議出席
- 26日 本部春季大祭遙拝。結城和広役員、本部神殿奉仕つとめる
- 27日 会長、少年会年頭幹部会、かなめ会出席
- 29日 縦の伝道日
- 30日 みそか会。直轄世話人会



立教186(令和5)年人のご守護成果表 (1月末現在)

教会名	初席	中席	ようぼく	修卒	教人	参加者		教会名	初席	中席	ようぼく	修卒	教人	参加者	
						当月	累計							当月	累計
直美女	轉幌別					9	9	誠央道						2	2
満里						1	1	常道						1	1
斜						3	3	徳満						2	2
釧厚								網安							
武士						1	1	オホーツク							
常呂			1			6	6	網徳							
旭						1	1	栗沢							
御料								徳元						1	1
東藻								網盛						1	1
陽光						1	1	網新						1	1
呼人						3	3	網葉							
誠陽		1				1	1	網陽						1	1
網栄								誠網	1					2	2
實東								網次							
宗						4	4	網昇						1	1
						1	1	勇走						1	1
								詰所							
初席	中席	ようぼく	修卒	教人	参加者	教会名	参加者	初席	中席	ようぼく	修卒	教人	参加者	教会名	参加者
当月	成果	当月	成果	当月	成果	当月	成果	当月	成果	当月	成果	当月	成果	当月	成果
1	1	1	1	1	1	1	1						44		44

春季大祭 1/12(木)

春季大祭 1/12(木)					
(参拝者数 約80人)					
神殿講話	賛 者	指図方	扨者	祭主	祭 員
大教会長	遠藤清安、藤田真壁、安田正教、光広志、知幸広	結城和広	小松篤志	大教会長	祭 員
胡三味琴弓線	小すたりが、太拍子、ちやんぼん、管子、鼓ね、鼓木	地 方		てをどり	祭 典
丸山崎のり	栗山善信、細三善、結城和広、澤田信、清谷正徳、清水和徳、遠原徳正、三原明志、永宮喜明、岩井幸繁	瀬川清	藤山重善	三藤輝子、栗山篤子、小松篤志、大谷厚平、大谷松平、大谷長	座りづとめ
澤藤大田	桐結善、清谷善和、大田信広、泰和	田小中	齋細里、青木朱子、遠山聖美、藤原明子、斎藤芳徳	前 半	割
眞結美香	瀬川美香、清川定二、瀨川秀二、岩井正明、永宮幸繁	藤清水重知	眞水正善	三栗有直、栗林代子、安光正、栗田広志、栗林正志	後 半